

人間発達学特論

[講義] 第2学年 後期 選択 1単位

《履修上の留意事項》本科目は人間発達学 (PT/OT) または生涯発達心理学 (ST) をより深く理解するために実施する。
将来的に小児リハビリテーションに関わる / 従事することを希望する学生は履修することが望ましい。

《担当者名》 大須田祐亮 osuda@hoku-i-ryo-u.ac.jp 依田泰知 小林健史 辻村礼央奈

【概要】

人間発達学または生涯発達心理学の内容を基礎として人間発達をより深く理解するために必要な理論背景、および発達障害を有する対象者にリハビリテーションを展開する上で必要な知識を教授する。加えてリハビリテーション専門職種それぞれがどのような視点で対象者の人間発達を捉えているのか多面的に学び、対象者への理解を深めるとともに、他職種の専門性について相互理解を深める。

【学修目標】

【一般目標】

人間発達・生涯発達心理学をより深く理解するために必要な理論や背景について説明できる。

【行動目標】

小児リハビリテーションにおいて人間発達学・生涯発達心理学の知識をどのように活用できるのか説明できる。
小児リハビリテーションに関係する専門職種それぞれが、どのような視点で人間発達を捉えているのか説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	運動発達の基本	胎児期から乳幼児期の運動発達過程について学び、小児リハビリテーション対象者の姿勢や運動を観察する際の視点について学ぶ。	大須田祐亮
2	早産・低出生体重児の発達特性	早産・低出生体重児の発達特性について学び、その後の発達過程を支援する小児リハビリテーション専門職として必要な視点について学ぶ。	大須田祐亮
3	遊び	遊びの発達の意義と年齢・発達段階による特徴を理解し、小児リハビリテーション専門職として遊びを評価および支援に活用する際に必要な視点について学ぶ。	依田泰知
4	巧緻・微細動作	巧緻・微細動作の発達過程と日常生活・学習活動との関連を理解し、小児リハビリテーション専門職として評価および支援に必要な視点について学ぶ。	依田泰知
5	就学・教育支援・卒後支援	教育・福祉分野における多職種との連携を含めた、小児リハビリテーション専門職の役割について学ぶ。	依田泰知
6	言語・コミュニケーションの発達と支援	言語・コミュニケーションの発達と支援の基本を概観し、小児リハビリテーション専門職としての視点を学ぶ。	小林健史
7	構音の発達と支援	構音の発達と構音障害や支援の基本を概観し、小児リハビリテーション専門職としての視点を学ぶ。	辻村礼央奈
8	摂食・嚥下機能の発達と支援	摂食・嚥下の発達を概観し、摂食嚥下障害について、小児リハビリテーション専門職としての視点を学ぶ。	辻村礼央奈

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

教員から指定されたレポート課題・提出物により評価を行う。（100%）

定期試験は行わない。

【参考書】

15レクチャーリハビリテーションテキスト 人間発達学 総編集：石川朗 中山書店

Crosslink basic リハビリテーションテキスト 人間発達学 編集：浅野大喜 メジカルビュー社

【学修の準備】

(2026年度・リハビリテーション科学部)

毎回の講義前に、講義内容について参考書等であらかじめ予習しておくこと(80分)。
復習は、プリント、講義メモなどを活用して学習を深めること(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP2)作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

大須田祐亮(理学療法士)

依田泰知(作業療法士)

小林健史、辻村礼央奈(言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、福祉機関等での臨床経験を活かした教育を行う。